事例３　弟には姉、母には赤ちゃんのように振る舞うＣ子（小学５年生）

欠席等の様子

保育園の頃	登園しぶりがあった。
１年～２年	登校しぶりがあった。
３年１学期	身体症状が出て、登校しにくくなる。
２学期	12日(ことばの教室に登校した。)
３学期	56日(全欠)
４年	36日
５年	34日

学習の様子

[図工]　描画は上手にできる。
[体育]　苦手意識が強い。
[家庭]　包丁を使っての細かな作業が苦手である。
[理科]　得意だが、好きではない。
[国語]　表現読みができる。

学力は中程度で、教科によって差がある。
学習課題を完成するのに時間がかかる。

性格や行動の様子・エピソードなど

○　帝王切開で出生した。
○　３歳の時、弟が生まれ、退行現象[※6]が現れ、強く母を求めた。
○　弟には姉としてかかわり、母には赤ちゃんのように振る舞った。
○　(３年)母の膝からなかなか離れられなかった。
○　(５年)授業参観に母親が来なかったので、ことばの教室で大声で泣く。
○　性格的に依存傾向が強い。対人恐怖的な傾向もあり、友達との遊びを嫌がった。
○　肥満ではないが長身のがっちりした体格で、話し方がゆっくりだったり、よく転んだりするので「どんくさい」と悪口を言われることがある。土手の散歩でも、一緒に歩いている児童を巻き込んで田んぼへ落ちることがある。
○　音読が上手であるが、聞いている他の児童にとっては表現がややオーバーに感じられることもある。
○　母親は体格も良く、常に冷静で感情の昂ぶりを示すようなこともなく、カウンセラーのようにＣ子に接する。

児童の理解

母親依存が強く友達とのかかわりがうまくできず、社会的な場である学校に登校できなくなった。

援助・指導の方針

1　安定して、継続的にかかわれるＣ子の居場所を確保する。
2　プロジェクトチームで対応する。(学級担任、教育相談部員、スクールカウンセラー)
3　自己決定による行動を促す。
4　スクールカウンセラーによる本人及び両親へのカウンセリングを行う。
5　友達との関係の充実を図る。
6　プレイセラピーにより遊びの充実を図る。

援助・指導例と経過	主な担当者　プロジェクトチーム
○登校の楽しさを知ることを目指す時期(４年　１学期) ことばの教室での人間関係や居場所づくり プレイセラピー	・Ｃ子が安心して受け止められるかかわり方に配慮しながら、春休み中から、教育相談部員が登校を促す。 ・他の不登校児童と共に、遊びを通じて人間関係づくりを行う。 ・他の不登校児童と距離を保ちながら、居場所をつくる。 ・身体を動かすことを中心にしたプレイセラピーを実施する。 Ｃ子がコースを決定して、散歩に出かける。 指導者が入る遊びから、子ども３人で作り出す遊びへ。
○友達関係の安定化を図る時期(４年　２学期) スクールカウンセラー等とのカウンセリング 学級担任との遊びなど	・Ｃ子、親を対象としたカウンセリングを並行して行う。 （子どもにとって両親は「安全の基地」(スクールカウンセラーの言葉)であることを親に伝える。） ・自学級の友達とかかわる機会を不定期にもてるよう配慮する。 休み時間に友達が遊びに来る。給食を仲の良い友達と食べる。 ことばの教室の掃除を友達とする。 ・授業時間外の学級担任と遊ぶ。
○友達との遊びの充実の時期(５年)	・一斉授業形態をモデルにして、ロールプレイングを行う。 （生徒役[※1]や先生役を代わり合って演じる。） ・平行遊びからの脱却を図る。（友達と対等な関係で遊ぶ。） ・放課後いっしょに遊んだ友だちと、帰宅後も遊ぶ。
○ことばの教室から特定の授業への参加	・教育相談部員が声をかける。「体育見学に行ってみたら」 ・自学級の友達が誘う。「理科室へ行こ」 ・Ｃ子と担任が相談して決めた教科(体育、理科等)の授業に参加する。 ・自学級での学習に、自己決定して参加する。 ・自学級で遊ぶ。
○別室登校から学級登校へ(５年　３学期)	・自己決定により、ことばの教室から自学級へ帰る。(「行ってくるね」から「さいなら」へ変わる。以後、学級へ全面的に入る。) ・担任は、他の児童と同じかかわり方を基本として指導を行う。

変化と課題

１　変化

対人関係　カウンセリング等により、母親のイメージが理想像から現実のものに近づき、人への恐怖感や緊張等も緩和し、友達との関係が広がった。

学習　時間ごとに、できたことが評価されることで、自信がもてるようになり、学習に気持ちを注げるようになった。

２　課題

学習　話し方や行動がゆっくりで、極端に不器用なところがある。

家庭　Ｃ子は、母親と心を通わせるまでには至っていない。

考　察

母親を理想化するあまり、年齢相応の分離が果たせず、友達とのかかわりがうまくできなかった児童に、プロジェクトチームを組み、各担当者がそれぞれの役割を担い、援助していったことで心理的に成長させることができた事例である。

なお、Ｃ子は、全授業に出席し、自発的な発言もするようになっているが、教科によっては個別指導が必要である。

Ｃ子は今　中学校では安定して登校している。